

令和5年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	けんせつフェア北陸2023in金沢	事業経緯	継続	実施体制	実行委員会	担当所属	技術調査室
事業名 (大項目)	調査研究及び研究助成事業	分類名 (中項目)	技術開発支援事業		事業区分	技術開発、研究開発	

1. 事業目的

本事業は、産・学・官の優れた建設技術を一堂に集め、建設技術者の技術の研鑽・高揚並びに技術情報の交流の場とすることで、建設技術の一層の高度化、広範囲な技術開発の促進を図り、新技術・新工法の積極的な活用促進、建設技術を活かした地域づくりや担い手確保に繋がる広報を目的に開催した。

2. 事業実施体制

主催:「けんせつフェア北陸2023in金沢」実行委員会(26機関・団体)

国土交通省 北陸地方整備局/新潟県/富山県/石川県/新潟市/金沢市
 東日本高速道路(株)新潟支社/中日本高速道路(株)金沢支社/(一社)日本建設業連合会北陸支部
 (一社)日本道路建設業協会北陸支部/(一社)新潟県建設業協会/(一社)富山県建設業協会
 (一社)石川県建設業協会/(一社)日本建設機械施工協会北陸支部
 (一社)北陸土木コンクリート製品技術協会/(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部
 (一社)建設電気技術協会北陸支部/(一財)日本建設情報総合センター北陸地方センター
 北陸地質調査業協会/(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部/(一社)新潟県融雪技術協会
 (一社)日本橋梁建設協会北陸事務所/(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部
 北陸PC防雪技術協会/(一財)新潟県建設技術センター/(一社)北陸地域づくり協会

共催:「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」(教育機関等40機関・団体)

協賛:北陸電力㈱

後援:25機関・団体(官公庁、学校、マスコミ、建設関連団体など)

3. 事業実施概要

日時:令和5年10月4日(水)10:00~17:00 ~ 10月5日(木)9:00~16:00

場所:石川県産業展示館 4号館

開催テーマ(キャッチフレーズ):「インフラDXが明日を変える」

展示内容など:

- ・民間企業の新技術(有用な技術含む)・新工法の紹介・展示
- ・ICT関連技術の特設展示・実演
- ・北陸地方整備局、自治体等の公共事業の紹介・展示
- ・学校(大学)の研究開発の紹介・展示
- ・展示技術プレゼンテーション(67出展者) Web配信
- ・学校招待(805名:石川県内9校・富山県内4校)
- ・合同企業セミナー(101出展者)

出展規模:166出展者、431技術(インフラDX関連 139技術)

来場者:のべ4,921人

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

1993年より隔年で開催しており16回目となった今回は、166者・431技術といずれも過去最高の出展となった。行政関係者並びに建設技術者の技術力向上、技術研鑽・高揚を図り、技術開発・研究開発の一助となるとともに、新技術・新工法の活用・普及につながる事が期待されており、『インフラDXが明日を変える』のキャッチフレーズのもと、展示技術3割以上にあたる139技術(70者)がインフラDXの関連技術であった。

屋外展示場・ICT特設展示場では「みて、ふれて、知る 新技術・新工法」のサブタイトルに沿い、ICT建設機械等による実演・体験が行われ、多くの来場者が関心を示していた。

出展技術のプレゼンテーションは前回に引き続き、Web方式によるプレゼンテーションを行い、開催告知PRとして、開催2週間前からホームページに公開し、のべ1,800回の視聴者数であった。

担い手確保のための情報発信として、地元の学校から約800名を招待し、石川県内企業による学生向けの「合同企業セミナー」を行い、多くの学生が参加した。

学生の9割以上が「非常に良かった」または「良かった」とし、「各企業の活動や詳細について、興味を持つきっかけになった」「様々な企業の取り組みを見て興味が湧いた」など、本事業の目的である担い手確保に繋がる成果が十分に感じ取れた。

来場者アンケートでは、9割以上が次回以降も開催を望む回答で、出展者アンケートでも「他企業の新技術を観覧、非常に有意義なイベントであった」などの意見があり、9割以上が「次回以降も出展を望む」結果となり、来場者・出展者双方にとって大変有意義な事業であったことが伺える。

